

【広島市消費者物価指数】

1 平成 26 年 10 月の動向

- 広島市総合指数（103.1）は前月比で 8 か月ぶりの下落。前年同月比は 16 か月連続の上昇。
- 生鮮食品を除く総合指数（102.8）は前月比で 2 か月ぶりの上昇。前年同月比は 16 か月連続の上昇。
- 食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数（100.3）は前月比で 5 か月ぶりの上昇。前年同月比は 13 か月連続の上昇。

2 総合指数、生鮮食品を除く総合指数、食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数

	指 数	前月比 (%)	前年同月比 (%)
総 合 指 数	103.1	▲0.1	2.8
生鮮食品を除く総合指数	102.8	0.1	2.5
食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数	100.3	0.2	1.5

3 前月からの動き

～諸雑費及び交通・通信は上昇、食料は下落。～

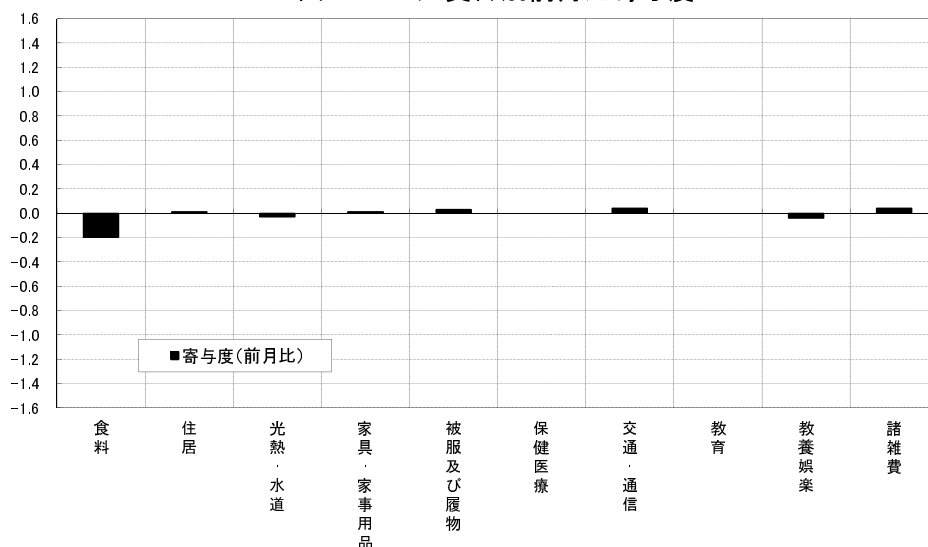
(1) 10 大費目の動き

	総合	食料	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
指 数	103.1	105.6	99.2	113.8	92.0	107.2	100.4	104.8	98.2	96.2	109.5
前月比 (%)	▲0.1	▲0.8	0.1	▲0.4	0.4	0.5	0.1	0.3	0.0	▲0.3	0.6
寄与度	▲0.1	▲0.20	0.01	▲0.03	0.01	0.03	0.00	0.04	0.00	▲0.04	0.04

(参考) 主な要因となっている 10 大費目について、寄与の大きかった中分類項目

- 諸 雑 費：理美容用品（前月比 2.3%，寄与度 0.04）等
- 交通・通信：通 信（前月比 0.5%，寄与度 0.02）等
- 食 料：野菜・海藻（前月比 ▲7.5%，寄与度 ▲0.23）等

図 1 10 大費目別前月比寄与度



(注) 寄与度：物価全体（総合）の上昇（下落）に、各費目がどれだけ影響したかを示したもの。本来、寄与度の合計は、総合指数の前（年同）月に対する変化率となるが、四捨五入の関係で一致しない場合がある。

(2) 総合指数に対する寄与の大きかった中分類項目 (寄与度順)

上 昇		下 落	
項 目 (主な品目名)	前月比	項 目 (主な品目名)	前月比
調理食品 (うなぎかば焼き 等)	1.6%	野菜・海藻 (レタス 等)	▲7.5%
理美容用品 (電気かみそり 等)	2.3%	魚介類 (さんま 等)	▲3.3%
果物	3.7%	教養娯楽用耐久財 (テレビ 等)	▲3.9%
肉類 (牛肉[国産品] 等)	1.2%	穀類 (うるち米 等)	▲2.0%
履物類 (男子靴 等)	3.3%	電気代 (電気代 等)	▲0.6%

4 前年同月からの動き

～食料及び教養娯楽は上昇, 教育及び家具・家事用品は下落。～

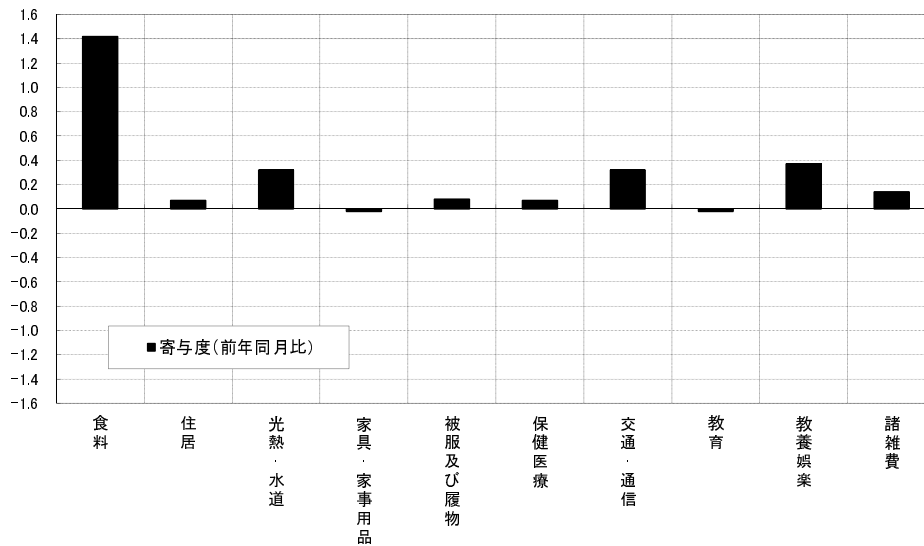
(1) 10大費目の動き

	総合	食料	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
前年同月比 (%)	2.8	5.6	0.4	3.9	▲0.5	1.7	1.6	2.3	▲0.7	3.5	2.0
寄与度	2.8	1.42	0.07	0.32	▲0.02	0.08	0.07	0.32	▲0.02	0.37	0.14

(参考) 主な要因となっている10大費目について, 寄与の大きかった中分類項目

- 食 料: 外 食 (前年同月比 4.7%, 寄与度 0.24) 等
- 教 養 娯 楽: 教養娯楽サービス (前年同月比 3.6%, 寄与度 0.22) 等
- 教 育: 補 習 教 育 (前年同月比 ▲9.0%, 寄与度 ▲0.05) 等
- 家 具 ・ 家 事 用 品: 家 庭 用 耐 久 財 (前年同月比 ▲5.1%, 寄与度 ▲0.07) 等

図2 10大費目別前年同月比寄与度



(2) 総合指数に対する寄与の大きかった中分類項目 (寄与度順)

上 昇		下 落	
費 目 (主な品目名)	前年同月比	費 目 (主な品目名)	前年同月比
外食 (焼肉 等)	4.7%	家賃 (持家の帰属家賃 等)	▲0.5%
肉類 (牛肉[国産品] 等)	9.9%	家庭用耐久財 (ルームエアコン 等)	▲5.1%
教養娯楽サービス (宿泊料 等)	3.6%	補習教育 (補習教育[小学校] 等)	▲9.0%
魚介類 (えび 等)	8.9%	シャツ・セーター類	▲2.0%
交通 (高速自動車国道料金 等)	7.9%	寝具類 (布団 等)	▲2.3%